

英語科学習指導案

日時 平成28年5月19日(木) 1, 2校時
学年 3年5組 男子20名 女子20名 計40名
指導者 池田 深 索

1 単元名 NEW HORIZON English Course 3 Unit 1 Pop Culture Then and Now

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、光太とベーカー先生が19世紀当時と現代の大衆文化について話をするという内容で、浮世絵を用いたゴッホの絵の紹介、光太とベーカー先生による19世紀のヨーロッパにおける日本文化の影響についての対話、ベーカー先生による世界で有名な日本の大衆文化の紹介、大衆文化の昔と今についての一郎の感想によって構成されている。言語材料としては、受け身、makeを用いた主語+動詞+目的語+形容詞、文化について説明や紹介をしたり、その文化について感想や自分の考えを述べたりするための表現などが扱われている。このような言語材料を基に、生徒は日本の文化や風習について自分の考えや主張、気持ちなどを伝えることが可能である。よって本単元は、日本の文化や風習について、生徒に身近な外国人に紹介したり、その内容について対話したりすることで日本の良さを世界に広めたいという意欲をかきたてる題材であると考えられる。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、意欲的に授業に取り組む生徒が多く、スキットやスピーチ等の作成に積極的に取り組んだり、グループで協働して話し合いながらより良い発表ができるように課題を見出そうとしたり、さらに、その見出した課題を解決しようとする姿が見られる。また、家庭学習にも真面目に取り組む生徒が多く、既習事項の復習をしたり、それらを用いた英文を練習したりしている。さらに、前年度行った「日本の映画を台湾の実習生に紹介しよう」というタスクでは、単元の導入時に既習事項を用いて日本の映画を紹介しようと繰り返し試みる中で、自ら自己課題を設定し、解決策を考え、改善を図ろうとするなど、能動的に学習に取り組もうとする生徒が多く見られるようになった。しかし、生徒の設定した課題には、「単語が読めない。」「声が小さかった。」などの比較的容易に解決策を見つけることができる課題が多く見られた。また、アンケートによると、生徒の中には多様な課題を見出すことができたとしても、その課題を精査したり、よりよい解決策を見出したりするための時間が足りていないと感じたり、一人で課題を解決することが難しいと感じたりしている生徒もいる。さらに、教師が提示したルーブリックをうまく活用することができず、自分がルーブリック上のどの段階にあるのかを認識することが難しいと感じている生徒もいることが分かった。これらのことが要因となり、生徒は質の高い自己課題を設定し、解決するまでに至っていないと考えられる。

また、家庭学習に取り組む際に、課題意識をもてていない生徒も少なくない。これは、授業で取

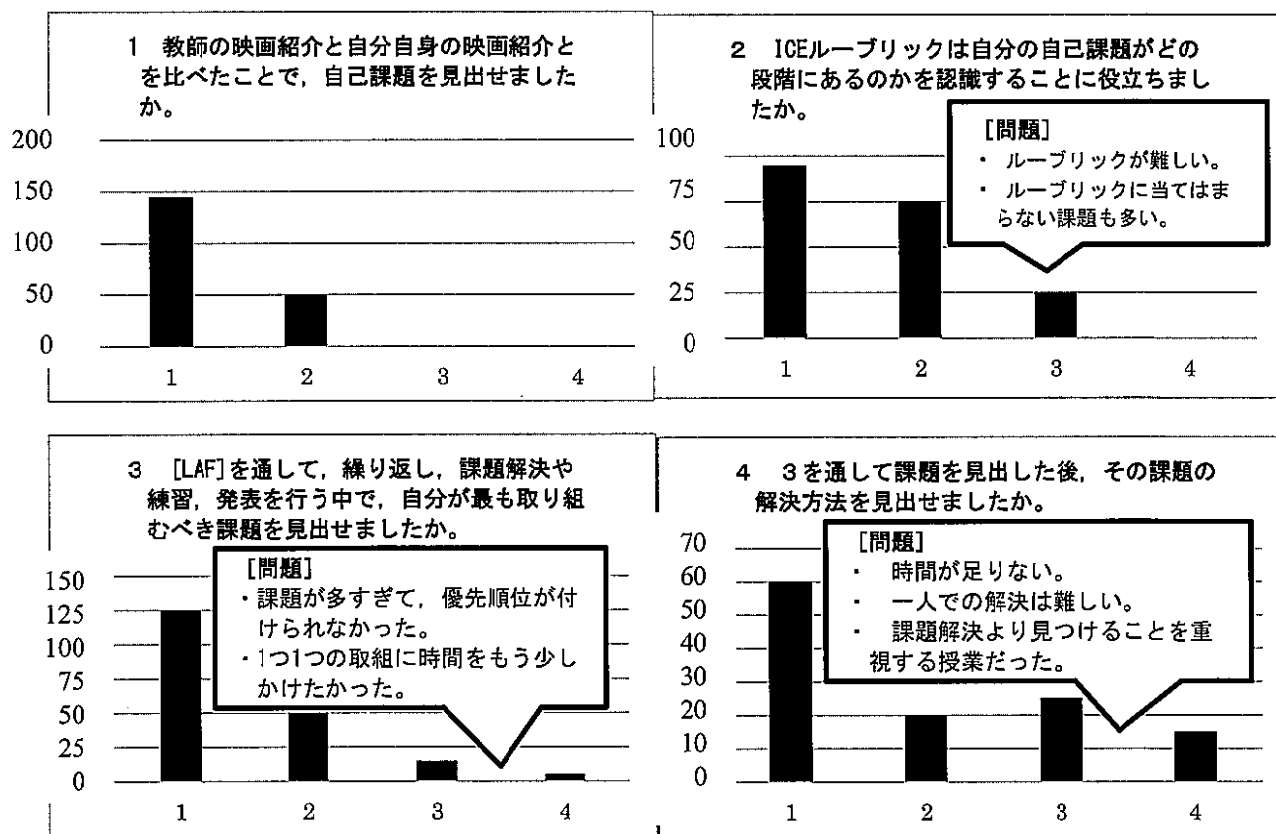
り組むべき課題と家庭学習で取り組むべき課題とを区別させることが十分にできていないために、授業と家庭学習との関連付けやそれぞれでの学習の意味付けが効果的に行えていないためであると考えられる。

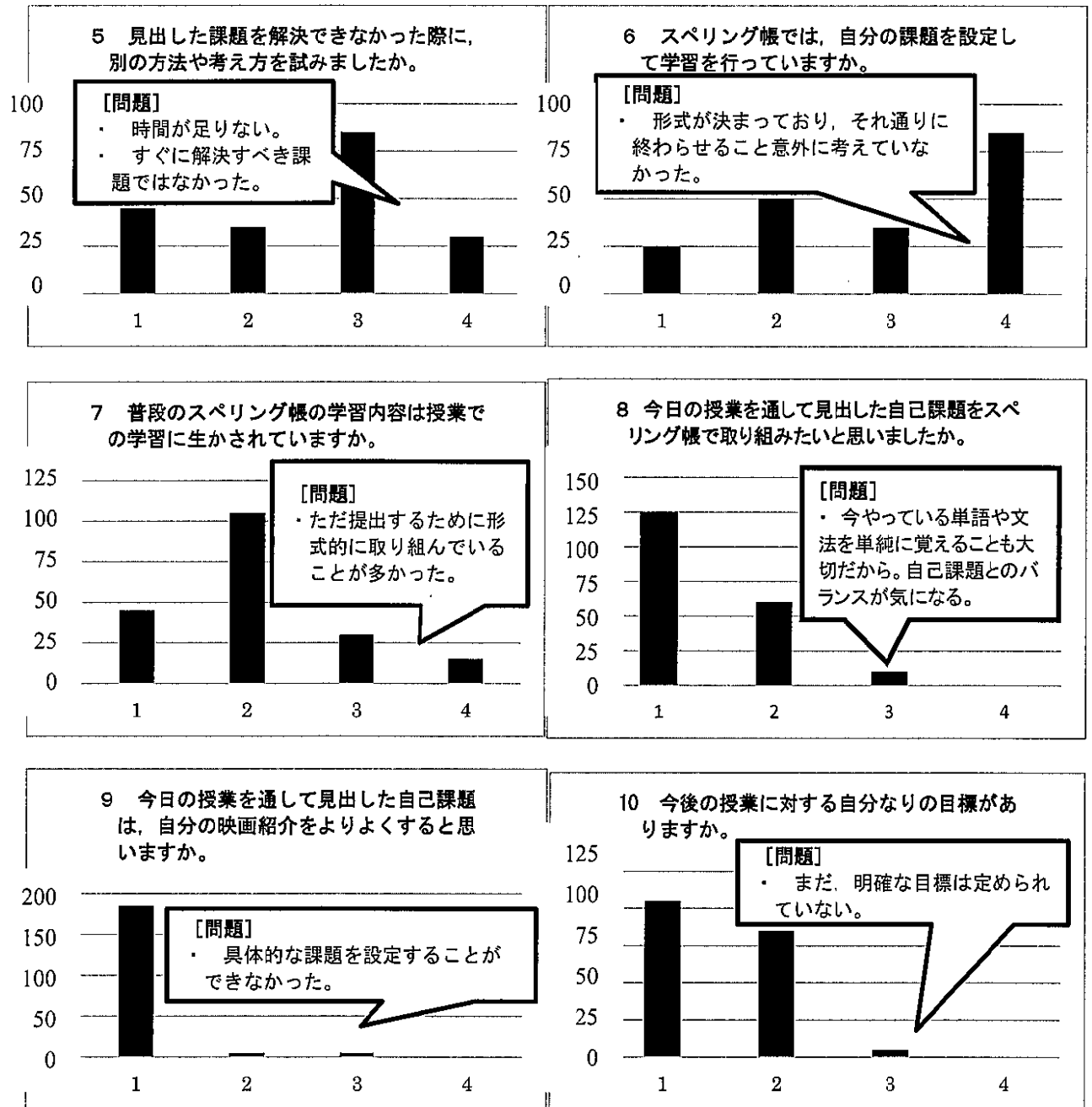
よって、本単元においては、small tasksを通して課題設定やその解決に必要な視点や手立てについて家庭学習と関連させながら指導することで、生徒がlarge taskの達成のために解決すべき課題を効果的に設定し、また、その課題の解決に向け、生徒が自己調整能力を高められるような指導をしていきたい。さらに、家庭学習と授業とで取り組むべきことを明確させた上で、双方を有機的に関連付けることで、授業中に教師や他の生徒と協力しながら課題を解決するための時間を充分確保し、また、ルーブリックを生徒の自己課題に沿うものにするすることで、生徒が自分自身の現状を見直すことができ、より能動的に自己課題を設定し、解決に臨むことができると考える。

鹿児島大学教育学部附属中学校英語科アンケート結果

[平成28年1月に実施した実証授業後に、2年生198名を対象に実施]

1 「はい」 2 どちらかといえば「はい」 3 どちらかといえば「いいえ」 4 「いいえ」





(3) 指導観

本単元の題材の特性を生かし、生徒が世界に広めたい日本の文化や習慣について、聞き手にとって分かりやすく共感を得られるようなスピーチができるようにしたい。また、発表したスピーチを基に対話が広がり、異文化の相互理解や、地球規模の課題について考えることができる授業を展開したい。そのために、まず、単元のあらましを理解させた後、large taskの設定や、「LAF」学習を用いた自己課題の設定を行わせる。その後、教科書の内容を中心に、small tasksを通して日本の文化や習慣について説明したり、考えを述べたりするための言語材料等を理解させる。その際、協働的に関わらせながら、プレゼンテーションに必要な視点に沿って生徒が紹介したい日本の文化や習慣について表現させる活動を取り入れる。また、毎時間の授業の終末時において、ループリックを用いた自己課題の設定を行わせる。その際には、授業で解決できる課題と家庭で解決すべき課

題とを区別させながら、効果的に家庭学習に取り組ませ、家庭学習と授業の関連を強めたい。そして、「世界に広めたい日本の文化や習慣を台湾の実習生に紹介しよう」という middle task では、small tasks を通して学んだプレゼンテーションに必要な視点や large task で用いるルーブリックを確認させながら「LAF」学習に取り組ませ、台湾の実習生からの評価とそれまでに教師により与えられた視点を基に、large task の達成のために必要な自己課題を適切に設定させた上で、よりよく日本の文化や習慣の紹介文を書いたり、よりよい英語のプレゼンテーションができるようにさせたりしたい。その後、それまでの経験を生かし、「台湾の中学生に世界に広めたい日本の文化や習慣を紹介しよう」という large task にスムーズに取り組めるようにさせたい。

このような指導を通して、生徒の能動性を発揮させ、自己調整を図らせることにより、よりよく伝えたり、相手の考えをよりよく理解したりする力が高まり、国際的な視野をもち、円滑にコミュニケーションを図ろうとする生徒を育成できると考える。

3 単元の計画

(1) タスク「台湾の中学生に世界に広めたい日本の文化や習慣を紹介しよう。」

(2) large task で活用させたい主な言語材料

言語の働き	学年・単元	教科書での表現
紹介する	1年 U2-③ 2年 U2-RFC 2年 U2-RFC	Kevin, this is Becky. Now I'm going to tell you about kiwis. People call it Mt. Taranaki.
説明する	1年 U2-③ 1年 U6-① 1年 U10-② 1年 U11-① 2年 U6-SO 2年 U7-D 2年 U7-RFC 3年 U1-SO 3年 U1-RAT②	He's a very good basketball player. She teaches university classes, too. That's the Golden Gate Bridge. We enjoyed the food and the view. It's famous for the song <i>Grandfather's Clock</i> . It's the most wonderful movie in the world. Becky is my best friend. It is loved by many people. This idea makes me happy.
描写する	1年 U10-① 1年 U10-② 1年 U10-② 1年 U10-③ 1年 U10-③ 1年 WP3 2年 WU 2年 LRI 2年 U6-RFC	The hills here are too steep. Wow, it's beautiful. But it's not golden. Look at the trees! They're very tall. Look at the lake! It's like a mirror. The Earth is so small. You can see me at the zoo. I can't believe my eyes. The song <i>Grandfather's Clock</i> was warm and beautiful.
意見を述べる	2年 U5-D 2年 U5-D 2年 U5-RFC	I think I can do something for others. I'm sure it'll be a wonderful experience. I am for the service because we can help many foreign people.

(注) 上記の教科書の表現は平成24年～27年度版の NEW HORIZON English Course 1,2と、平成28年度版の NEW HORIZON English Course 3を参照

(3) large task における活用例（日本の文化や習慣の紹介文）

Hello, I'm Tanaka Ichiro. I'm a Fuzoku Junior High School student. Many students and I live far from school and I have to use the city tram. And after we get off the tram, we have to walk down a narrow sidewalk to our school.

One day it was raining and as I walked, I saw a woman coming toward me. We both had umbrellas. What do you do on the narrow sidewalk? Do you walk without doing anything? Do you say, "Make way"? No. I think we can both tilt our umbrella to the side. Of course, I did so! And the woman did so too. By tilting our umbrellas to one side, we passed by smoothly. This gesture is called "Kasa -kashige" in Japanese and is good manner. People in Edo period started this custom. They thought it's important to consider other. We're proud of this tradition. If we are all kind to others, wars will stop, poor children will be saved, and we can make this world a better place. "Kasa - kashige" is a small act of kindness, but small changes can make big differences. Think globally, act locally.

(4) 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
① 間違いを恐れず日本の文化や習慣について分かりやすく紹介しようとしている。 ② 聞き手が理解しやすい紹介文を作成するために繰り返し原稿を修正したり、改善を加えたりしている。	① 日本の文化や習慣について聞き手が分かりやすいようにまとめたり、自分の考えや感想等を加えたりしながら、紹介することができる。	① まとまりのある英文の概要や要点について適切に読み取ったり、聞き取ったりすることができる。	① 受け身の文の形や意味、用法を理解している。 ② makeを用いた主語＋動詞＋目的語＋形容詞の文の形や意味、用法を理解している。

(5) 指導と評価の計画

時間	○タスク ・学習活動	単元の評価規準	評価方法 (総括的評価)
1	○ [small task] 単元のあらましを理解しよう。 ・ large task の設定 ・ 日本の文化や習慣の紹介文の作成 ・ 自己課題の設定とルーブリックの確認		
2	○ [small task] 日本の伝統文化を紹介しよう。 ・ 受け身を用いた文の形や意味、用法の理解と表現練習 ・ Starting Out の内容理解と音読練習 ・ 日本の絵画についての紹介文の作成	エー①	後日ペーパーテスト
3	○ [small task] 日本の伝統文化について質問し合おう。 ・ 受け身の疑問文の形や意味、用法の理解と表現練習 ・ Dialog の内容理解と音読練習 ・ 日本の伝統文化についての質疑応答	エー①	後日ペーパーテスト
4	○ [small task] 日本の Pop Culture を紹介しよう① ・ Read and Think の内容理解と音読練習 ・ 日本の Pop Culture の紹介文の作成	ウー①	後日ペーパーテスト

5	<ul style="list-style-type: none"> ○ [small task] 日本の Pop Culture を紹介しよう② ・ make を用いた主語 + 動詞 + 目的語 + 形容詞の文の形や意味, 用法の理解と表現練習 ・ Read and Think の内容理解と音読練習 ・ 日本の Pop Culture について加味・修正 	エー②	後日ペーパーテスト
6 本時①	<ul style="list-style-type: none"> ○ [middle task] 世界に広めたい日本の文化や習慣を台湾の実習生に紹介しよう① ・ 台湾実習生への日本の文化や習慣の紹介 ・ 自己課題の設定とその解決 	アー②	活動の観察
7 本時②	<ul style="list-style-type: none"> ○ [middle task] 世界に広めたい日本の文化や習慣を台湾の実習生に紹介しよう② ・ 台湾実習生への日本の文化や習慣の紹介 ・ 自己課題の設定とその解決 	アー①	活動の観察
8	<ul style="list-style-type: none"> ○ [large task] 台湾の中学生に世界に広めたい日本の文化や習慣を紹介しよう① ・ 台湾の中学生への日本の文化や習慣の紹介 	アー① イー①	プレゼンテーション ワークシート
9	<ul style="list-style-type: none"> ○ [large task] 台湾の中学生に世界に広めたい日本の文化や習慣を紹介しよう② ・ 台湾の中学生への日本の文化や習慣の紹介 	アー① イー①	プレゼンテーション ワークシート

7 本時の計画

(1) 本時のタスク

「世界に広めたい日本の文化や習慣を台湾の実習生に紹介しよう」

(2) 指導の重点

「書くこと」「話すこと」

(3) 本時の目標行動

導入時において、前時までの内容を復習し、授業や家庭学習で large task として取り組んできた日本の文化や習慣の紹介文をペアで紹介し合う。その後、教師のモデルとして示す台湾の実習生へのプレゼンテーションを聞き、自分の紹介と比較しながら、再度課題設定を行う。さらに、日本の文化や習慣を紹介するプレゼンテーションに必要な視点を確認し、本時のタスクを把握する。次に、台湾の実習生に電話で日本の文化や習慣を紹介した後、実習生との質疑応答を通して、ルーブリックを活用しながら、生徒個々の課題を見出したり、精査したりする。その際、すぐに改善できる課題とそうではない課題を選別する。また、協働的な言語活動を通して得た情報や視点などを生かしながら個々に原稿の修正を行う。その後、学級で共通している課題を確認し、教師の指導を基に解決を図りながら、再度、原稿を修正する。そして、再度、台湾の実習生にプレゼンテーションを行い、それぞれの課題が解決されているのか確認したり、新たな自己課題を設定したりする。最後に、家庭学習と次時の学習内容について確認する。

(4) 本時の指導目標

- ア 繰り返し修正を図りながら、よりよい原稿を書いたり、発表したりしようとする態度を育む。
【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- イ 日本の文化や習慣についての紹介に、自分の意見や考え、感想を加えながら聞き手が分かりやすいように紹介できるようにさせる。
【外国語表現の能力】
- ウ 紹介した日本の文化や習慣について、台湾の実習生からの質問やその意図を理解することができようようにさせる。
【外国語理解の能力】
- エ 各自の課題に沿って、日本の文化や習慣を紹介するために必要な表現や文構造を理解させる。
【言語や文化に関する知識・理解】

(5) 授業設計上の工夫

ア 能動的に自己課題設定を行わせる工夫（教科論6-(1)-ア）

(ア) 「LAF」を用いた自己課題設定

本時では、日本の文化や習慣を紹介するという活動において、large task における「あるべき姿」として生徒にモデルを提示する。この工夫により、生徒は自分の日本の文化や習慣の紹介を現状として捉える。つまり、現状と教師のモデルとの間に見出した問題を認識することができる。さらに、「LAF」を用いることで能動的に課題を発見し、次の発表の機会に向け、意欲的にその解決を図ることができると考える。また、すぐに解決できる課題とそうではない課題に気付かせることで、より質の高い課題設定が期待できる。

このような工夫を通して、生徒が能動性を発揮しながら自己調整を図る能力が高まることから、能動的に自己課題を設定することができ、円滑にコミュニケーションを図る能力を高めることができると考えた。

イ 円滑にコミュニケーションを図る能力を育む指導と評価の工夫（教科論6-(2)-ア）

(7) ルーブリックを用いた large task の評価の工夫

本単元を通して、生徒が目指す理想の姿を、ルーブリックを用いて具体的に確認させる。このことにより、large task の解決に向けて、生徒自身が現状として、どの段階にあり、どのような課題があるのかを、常に把握しながら学習することができる。また、家庭学習とルーブリックとを関連させ、授業を通して学習した内容を生かしながら、その日の家庭学習で発表の原稿の書き直しを繰り返し行うことで、学習した内容の定着を確認することができる。さらに、授業で解決した課題以外にも、英語で書くことが難しい表現や発音が分からない単語、文章の構成などを自己課題として教師に質問するようになり、より能動的に学習に取り組む態度を育むことができる。と考える。

このような工夫を通して、授業や家庭学習において、ルーブリックを活用することにより、常に自分の原稿を評価しながら質の高い自己課題を設定することができるようになり、円滑にコミュニケーションを図る能力を育むことができる。と考えた。

(6) 本時の実際

ア 連続授業① (6/9)

区分	教授=学習課程	時間	生徒の活動	指導上の留意点 ◆評価 □補説 (研究との関連)
導入		10'	1 英語であいさつする。 2 教師とのインタラクションを通して large task を確認する。 3 家庭学習を通して、加筆・修正してきた日本の文化や習慣について、ペアで紹介し合う。 4 教師の日本の文化や習慣の紹介のモデルを見る。	・ 英語学習の雰囲気をつくる。 ・ 本単元のあらましと前時の内容を想起させ、large task に意欲的に取り組めるようにさせる。 ・ 聞き手には、台湾の実習生になったつもりで聞かせ、読み終わった後にルーブリックを基に、互いにアドバイスができるようにさせる。(教科論6-(1)-ア) ・ 教師のモデルと自分の紹介とを比較させ、ルーブリックを基に個々の課題を見出せるようにさせる。
			30'	5 本時のタスクを把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 世界に広めたい日本の文化や習慣を台湾の実習生に紹介しよう。 </div> 6 台湾の実習生に日本の文化や習慣を紹介し、自己課題を設定する。 7 発表を通して見つけた課題を整理し、解決策を考える。
終末		10'		8 本時の学習内容を振り返り、より良い日本の文化や習慣の紹介するための共通課題やその解決策をまとめる。 9 今後の活動の見通しを持つ。
<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> 休み時間を家庭学習と見立て、生徒の能動的な取組を促す。 </div>				

イ 連続授業② (7/9)

区分	教授=学習課程	時間	生徒の活動	指導上の留意点 ◆評価 □補説 (研究との関連)
導入		10'	1 英語であいさつする。 2 学級の共通した課題を確認する。 3 共通課題を基に、教師の発表の原稿を修正する。	<ul style="list-style-type: none"> 英語学習の雰囲気をつくる。 前時を振り返りながら課題を確認させる。 グループごとに話し合いを行わせ、多様な考えを引き出す。
			30'	4 本時のタスクを把握する。 5 発表の原稿の修正をする。 6 台湾実習生に向けて、日本の文化や習慣についての発表を行う。
終末		10'		7 本時の学習内容を振り返り、より良い日本の文化や習慣の紹介するための自己課題やその解決策をまとめる。 8 今後の活動の見通しを持つ。

世界に広めたい日本の文化や習慣を台湾の実習生に紹介しよう。